



新型コロナウイルスの正体を探り、 次の新興感染症に備えるために、今すべきこと

新型コロナウイルスという名前が誤解を生む

ほとんどのひとが「新型コロナウイルス」という言葉を毎日のように聞いていると思います。確かに新しいコロナウイルスには違いありませんが、未知のウイルスが蔓延しているような語感になっています。世界ではWHOが命名した「COVID-19」という疾患名が使われています。また、ICTVというウイルス命名委員会によって「SARS-CoV-2」というウイルス名が付いています。つまり、新型コロナウイルスはSARSコロナウイルスのひとつの型である、といえます。その理由は、新型コロナウイルスのゲノムの塩基配列がSARSコロナウイルスと約80%の相同性があること、SARSコロナウイルスの仲間であるコウモリコロナウイルスとは約95%の相同性があることがわかっているからです。私たち人類は2002年から2003年にかけてSARSという新興感染症を経験しました。その後、SARSは姿を消しましたが研究は継続されています。無症状感染者がいることや、伴侶動物への感染など、新型コロナウイルスで私たちが心配していることはSARSの学術論文の中にヒントがあります。

次の新興ウイルス感染症の対策をになう世代

新型コロナウイルスが収束もしくは終息したら、多くのひとはこのことを忘れてしまうことでしょう。しかし、ウイルス感染症は絶え間なく私たちを襲ってきています。この10年間を振り返ってみましょう。重症熱性血小板減少症候群（SFTS）、中東呼吸器症候群（MERS）、豚流行性下痢（PED）、デング熱、ジカ熱、エボラ出血熱、豚コレラ（豚熱）など、どれも聞いたことのある感染症の名前ばかりではないでしょうか。このことから、すぐに次のウイルス感染症が流行して大きな被害を及ぼすことは容易に想像できるはずです。皆さんが社会人になるころにも大きな感染症の流行があるに違いありません。そして、皆さんが中心となり感染症の対策や崩壊しそうな社会システムを支えるなど、さまざまな方面から活躍する必要があります。

次の新興感染症対策の主役は君だ

感染症の蔓延により発展する分野もあります。治療薬やワクチンの必要性は医学を進歩させます。それと同時にテクノロジーの飛躍的な進化が起こります。イノベーションが新しい検査法をうみ出します。経済の復興に関する新しい政策、本当の働き方改革など、社会のあらゆる場面で改革が起こります。次の感染症に備えて今から準備しておく必要があります。これは皆さんが社会人になったときに実践できるレベルで考えなければなりません。文系か理系かは関係ありません。

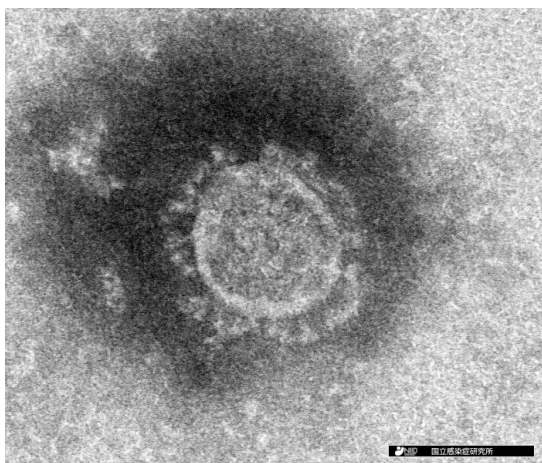


図1. 新型コロナウイルスの電子顕微鏡写真 (国立感染症研究所提供)
直径わずか100nmの生物か無生物かも定かではないウイルスにコントロールされるのではなく、私たちは科学力を身につけてウイルスを制御しなければならない。

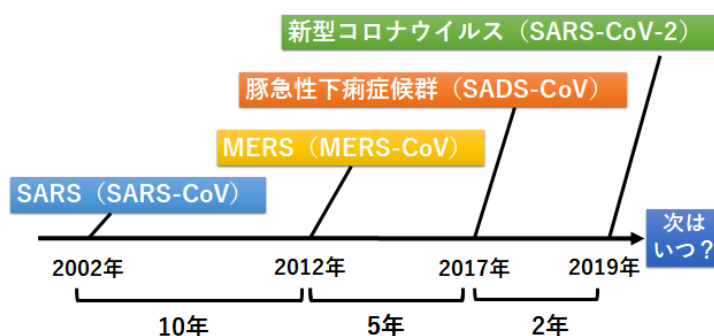


図2. 次のコロナは何年後に出現する？

SARSの出現から10年後にMERSが出現しました。その5年後にSADS（あまり知られていませんが中国でコウモリからブタに感染して多大な被害を出したコロナウイルス）、さらに2年後に新型コロナウイルスが出現しました。このようにコロナサイクルは短くなっています。

考えてみよう：

- ✓ SARSやMERS、新型コロナウイルス感染症などから学ぶべきことは何でしょうか。
- ✓ 新興ウイルス感染症に備えてどのような抗ウイルス薬やワクチンを開発すべきでしょうか。
- ✓ 感染症の拡大により医療が崩壊しないために平時に行うべき政策は何でしょうか。
- ✓ 感染症の蔓延でも揺るがない国の経済とはどのようなものか、考えてみましょう。